

きここち。

Yamane-mokuzai quarterly magazine 'Kicocochi' 2020 / Spring



特集

木の家
枯山水と

特集

枯山水と

木の家

家は、風土。
—木と暮らす。— 実例

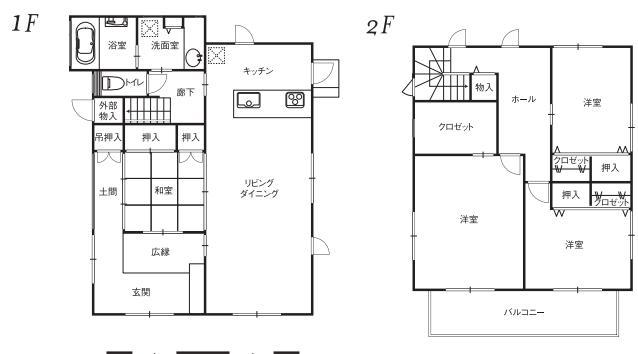
⑬

茶室を思わせる玄関。伝統的な建築工法を取り入れている





築13年とは思えない美しさを保つ室内。床は無垢のカバザクラ



リビングと和室の間の引き戸はナグリ。職人の仕事ぶりがうかがえる

杉苔を求め、レーキ（熊手の一種）も自分で作つてここまで仕上げた。「水をやると杉苔がふわっと膨らんで両手を広げているようで。それがかわいくて」と主人は目を細める。家はもちろん和の佇まい。格子戸を抜け、玄関を開けると円窓の障子が視界に広がる。竹を使った敷台、竿縁天井、坪庭にも枯山水。日本の建築様式の美しさに、目も心も奪われる。



思いをはせて

京都の
龍安寺に



陰影が美しい和室。雪見窓から坪庭が見えるように設計されている

京都・龍安寺。世界遺産であるこの寺の枯山水を初めて見たとき、衝撃を受けた。どの角度から見ても美しく、想像力を掻き立てるその端正な庭を「じっと座り込んで半日かけて眺めていた」とご主人は話す。

13年前、吳市の高台に自宅を新築したとき、あの枯山水を再現したいとの思いから、自身で石や



駐車場と家の間に設けた枯山水の庭



呉市内の店舗。掘り出し物のリサイクル品が並ぶ

地元に貢献。
木の温かみに
包まれた店内



店舗は呉市焼山の他に、休山トンネルのそばにも構える。この店舗も、ご主人の希望で木をあしらった落ち着いた雰囲気に。梁や柱、壁もあえて現しにしている。木の香りに包まれて、じっくりと掘り出し物を見つけられそうだ。

ご夫婦は呉市内で引っ越し業とりサイクルショップ店を営む。「仕事を終えて帰宅したとき、家が散らかつていたら余計疲れそうで……」と、室内も庭同様に無駄なものはない美しさ。ナグリの引き戸やコテの跡が美しいジョリパット仕上げの壁など、和の工法に包まれた癒やしの空間だ。「2~3日の旅行から自宅に帰ってきたとき、玄関を開けるとまだ木の香りがするんです。築13年なのに木の力はすごいですね」と奥様はうれしそうに話す。